

て、5村でコミュニティ林を設置することを村人と合意し、うち3村ではGPSによる実測を開始しました。住民による河川の利用を実証するため、5村で、村人による水棲動物資源（魚類）の利用状況の調査を開始しました。また、6村で魚保護地区を設置することを村人と合意し、一部で実測を開始しました。

住民の自然資源利用の権利に関する法律研修については、5月に県農林局において、2018年版法律普及カレンダーの発表会議を行い、中央および県・郡の行政官やNGO、企業関係者など合計34名の参加を得ることができました。12月にはJVCスタッフおよび県・郡の行政官や村人を対象として、本カレンダーを使った法律研修を実施しました。2019年版のカレンダー作成にも携わり、カレンダーを活用した法律研修では9村で526名の村人の参加を得ています。この他にも、農林省農林研究所の担当官を招聘して、NGO担当副郡知事や県農林局副局長、郡農林事務所長らを対象としたワークショップを行うなどしました。

村人の収入向上を目的とした農業技術研修については、調査に基づいて検討した結果、対象村と活動内容がすべて決まり、キノコ栽培研修などを始めることができました。

2018年度には、地域住民の諸活動の拠点として、両郡で農業研修センターの建設を進めてきました。10月にはアサバントン郡の農民学校が、19年の1月にはピン郡の農業普及センターの会議スペースが完成し、それぞれ落成式を行いました。



村の歴史を書き出すワークショップの様子



村人との話し合いの一コマ



ワークショップに参加した村の女性たち

#### 活動地からの声

##### ブンニュアン氏

50歳 男性  
アサバントン郡ナライコーク村  
農家、村長



JVCに支援をしてもらって、とても助かっています。調査のプロセスで、家庭菜園の候補地や村内の川的位置を航空写真で確認して村の姿を見ることができました。また、鉄道基地の建設については、政府による調査が一度あっただけで状況がよくわからないままでしたが、これについて村内の土地収用予定地の情報を得ることもできました。

